

エコロニア オランダ

2000年視察

オランダ初の環境共生住宅団地として1992年春に完成した。最近こうした共生団地はどんどん建設されるようになったが、百棟規模はまだまだ少ない。

政府から補助金が出ている。ルシアン・クロールが基本設計しており、住みながら変化していくことを前提としている。

9人の建築家が9つの提案を含んだ住宅デザインをしており、防音性を重視した連棟型、シュタイナーの流れを組むアントロポゾフィー（人智学）をデザインした家、日本の切り妻屋根とそっくりの家やコンパクトだが広く使える間取りが特徴でソーラーパネルを設置した家など・・・様々だ。

ここでは3つのテーマが掲げられている…

●環境との共生 ●リサイクル ●質を保つ

・計画時と実際でもエネルギー消費量を比較したところ、家電製品を多く用いるようになっていたことがわかった。住み始めると理想通りにはいかないようだ。

・環境と共生することを理解してここに住んだ人は全体の40%しかないという。

・断熱はセルルーズ&ペアガラスサッシ。

・南はサンルームにして、外と内の中間領域になっている。

・太陽熱温水で温水を賄う。太陽光発電は有効ではないと考えている。

・木材は赤松、黒松

・壁に温水を流して暖房することもしている。

・床はセルフベリングの工法にして気密性を高め、ラドンなどのガスが室内に放出しないようにしている。

・パイプは塩ビではなくポリプロピレン。

・塗装は水性塗料、外壁板はレッドシダーで塗装不要

・樋は銅を使っており耐久性はよいが水質汚染の心配がある。

・気密はウレタン発砲。コールドタールの発泡体は健康に悪いので使わない。

・1000リットルのタンクで雨水を貯めて利用するが不足がみ。

・ゴミは分別する。

・緑地帯を多く取りたかったが許されなかった。その代わりに公的な部分や道路を広くとった。

・水に囲まれた生活。子どもは遊べるし、憩いの場にもなる

・屋根緑化（コケ）

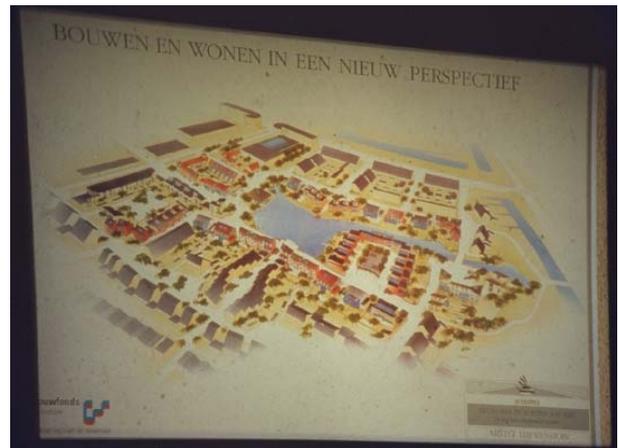
・遊歩道をつくらなかった。自転車はどこを走ってもいい

・防音を重視。塀壁にグラスウールを入れて遮音。

・陽防ぐためのシェード

・排気型換気システム

・セントラルクリーナー



俯瞰図



アントロポゾフォ（人智学）でデザインされた家。全体が微妙に歪んでいる。



調整池の周辺に建つ家。サンルームがある。



屋根緑化。英国庭園。壁に太陽熱パネル。